

危険度判定票作成と演習問題

被災宅地危険度判定士養成講習会

公益社団法人 全国宅地擁壁技術協会

1

危険度判定票を作成してみよう

宅地編／のり面編

まず周囲を眺めます。



建物が少し後傾している

沈下15cm程度

3cm未満の
クラックが
複数



電柱が少し傾いている

建物が動く
土が盛上がる

建物は明確なクラックありません

のり面が滑っている



(様式-2)

宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時		年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県		市郡		区町村		
地区・団地		丁目		番 号				
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL:				
所有者・管理者の連絡先		TEL:		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅		
被害状況		宅地地盤		のり面・自然斜面				
1.クラック		2.陥没		3.沈下		4.段差		5.隆起
1.クラック		2-1.ハラミ		2-2.陥没		3.ガリ・浸食		4-1.滑落
4-2.崩壊								
5.のり面保護工要状		6.排水施設の変状						
[平面図]		[断面図]						
被災写真の有無		☐ 無 ☐ 有一写真番号[]						
特記事項								

宅地地盤

手引き-16

5

のり面・自然斜面の基礎的条件									
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明	オーバーハング	☐ 無 ☐ 有					
土: 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明	排水施設	☐ 無 ☐ 有 (のり面、小段排水)						
のり面高	最大高	m (平均高)	m	のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生工 ☐ 構造物				
(組合のり面は断面高を)	うち側壁高	m		擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部				
のり面勾配	度			☐ のり面の下部 ☐ 全面					
のり長さ	m	家屋の有無	上部 ☐ 有 ☐ 無	下部 ☐ 有 ☐ 無					
変状形態と配点表									
変状形態のチェック(複数可)	小	中	大						
1 クラック(幅)	3cm未満	3~15cm未満又は複数	15cm以上又は全面	5					
2 陥没(深さ)	20cm未満	20cm~50cm未満	50cm以上	6					
3 沈下(沈下量・規模)	10cm未満	10~25cm未満	25cm以上	7					
4 段差(段差量)	20cm未満	20~50cm未満	50cm以上	8					
5 隆起(隆起量・規模)	20cm未満	20~50cm未満	50cm以上	9					
変状形態のチェック(複数可)	小	中	大						
1 クラック(幅)	3cm未満又は単数	3~15cm未満又は複数	15cm以上又は全面	3					
2 ハラミ・盤ぶくれ(隆起量・規模)	10cm未満又は1宅地ごとののり面等面積に対し10%未満	10~30cm未満又は1宅地ごとののり面等面積に対し10~50%未満	30cm以上又は1宅地ごとののり面等面積に対し50%以上	5					
3 ガリ・浸食	クラックなどが誘因となって雨溜りによる浸食が現れはじめた段階。	のり面の表土が雨溜りに陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	洞穴状や亀裂状にガリが進展して家屋の基礎やのり面等の下部に被害を及ぼすような状態。	8					
4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	表層すべりが連んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	全面的なすべり崩壊で、さらに粘土のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9					
5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり枠の間詰め撤去、又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のすれは認められない程度。	例えば、のり枠の部分形小破損、又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・すれが見受けられる。	例えば、のり枠の浮上り亀裂、又はコンクリート吹付工のラス金網が露出、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9					
6 排水施設の変状	天端排水溝にすれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある。	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7					
7 湧水、落石・転石	☐ 無 ☐ 有一+1点(上の点数に1点を加える)								
被害の判定値(上記の最大値を被害程度の点数とする)	被害程度の点数と危険度判定値 小被害: 1~3点(当面は防災上問題なし) 中被害: 4~7点(制限付き立入、通行は可) 大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)								
危険度判定	☐ 大 ☐ 中 ☐ 小	(人命・財産・交通の3点を判断基準とする) 拡大の見込 ☐ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可(備考)							
所見(記入者の意見)									

手引き-17

6

宅地地盤の危険度評価／隆起・沈下・陥没

ここでは、

建物表のアスファルト面に

3cm未満のクラックが複数 → 中

15cm程度の沈下 → 中

建物は傾斜している

液状化はないようです

宅地地盤の危険度評価／隆起・沈下・液状化

表3-24 宅地地盤の配点表

程度	宅地地盤の配点表		
	小	中	大
1クラック(幅)	1	3	5
2陥没(深さ)	2	4	6
3沈下(沈下量・規模)	2	4	7
4段差(段差量)	3	5	8
5隆起(隆起量・規模)	7	8	9
6湧水・噴砂	液状化による噴砂はなし		0点
合計値	4		

被害の評価

・変状点の合計値

4

・点数範囲

4～7点

・判定区分

中

変状が著しく、当該宅地に立ち入る場合は、時間、人数を制限するなど十分注意する。
変状が進行していれば避難も必要。

要注意宅地

(様式-2)

宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票	
調査日時	年 月 日 時 調査番号
被害発生場所	都道府県 市郡 区町村 番 号
所有者・管理者氏名	記入者氏名 TEL:
所有者・管理者の連絡先 TEL:	居住者への説明 ☐ 済 ☐ 未了
	☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅 ☐ 緊急避難 ☐ 済 ☐ 未了
宅地地盤 のり面・自然斜面	
1.クラック 2.陥没 3.沈下 4.段差 5.隆起 6.滑り 7.崩壊 8.陥没 9.浸食 10.沿道 11.崩壊	
5.斜面保護工変状 6.排水施設の変状	
 斜面保護工変状 (地盤より)  排水施設の変状 (地盤より)	
被災写真の有無 ☐無 ☐有 特記事項 有一写真番号	

のり面

手引き-16

手引き-17

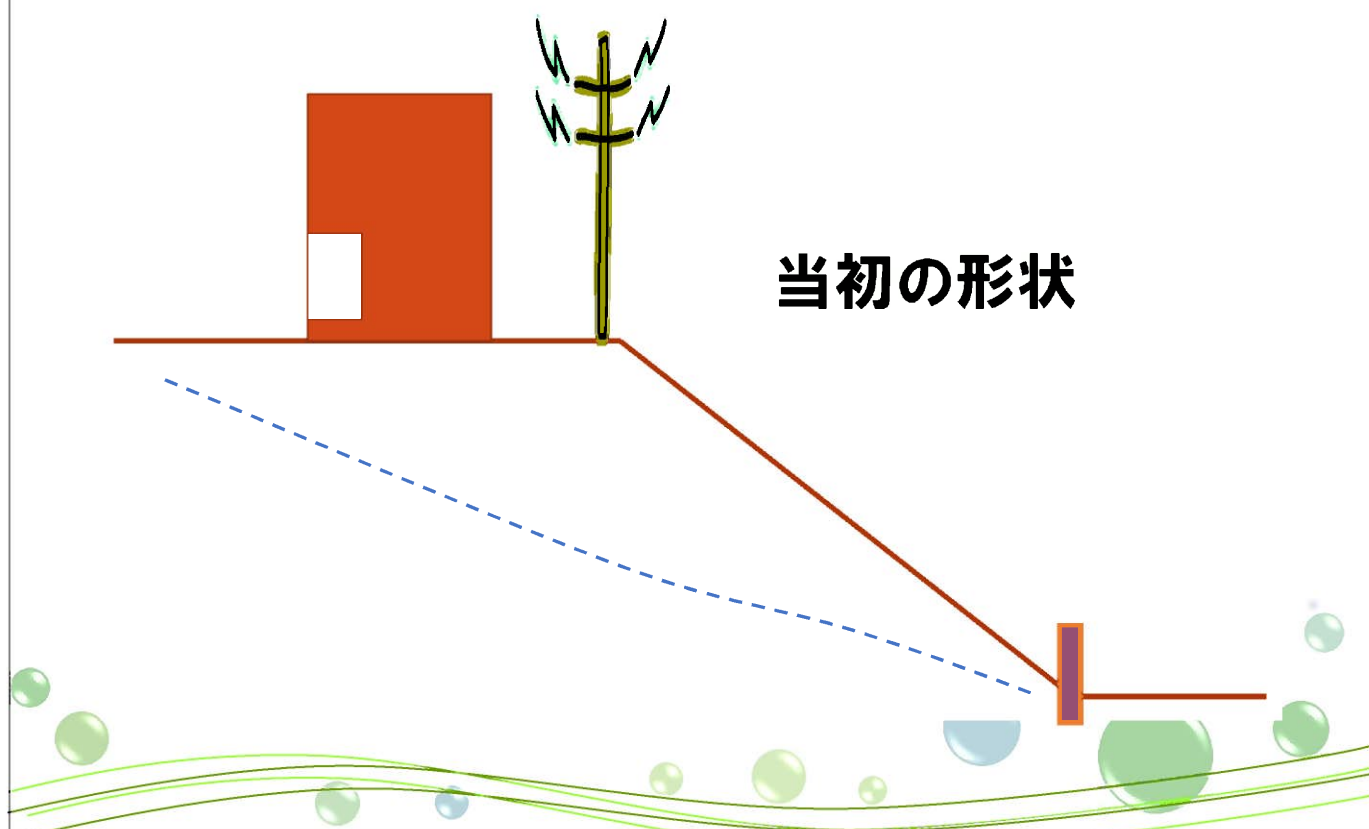
のり面・自然斜面の基礎的條件					
地盤	岩 質 土 砂	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明 ☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明	オーバーハング	☐ 無 ☐ 有	
のり面高	最大高 m(平均高 m)		排水施設	☐ 無 ☐ 有 (のり面、小段排水)	
(場合のり面は擁壁高)	うち擁壁高さ m		のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生工 ☐ 構造物	
のり面勾配	度		擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部	
のり長さ	m		☐ のり面の下部 ☐ 全面		
			家屋の有無	上部 ☐ 有 ☐ 無 下部 ☐ 有 ☐ 無	

変状形態と配点表					
1 クラック(幅)	3cm未満	1	3~15cm未満又は複数	3	15cm以上又は全面
2 陥没(深さ)	20cm未満	2	20cm~50cm未満	4	50cm以上
3 沈下(沈下量・規模)	10cm未満	2	10~25cm未満	4	25cm以上
4 段差(段差量)	20cm未満	3	20~50cm未満	5	50cm以上
5 隆起(隆起量・規模)	20cm未満	7	20~50cm未満	8	50cm以上

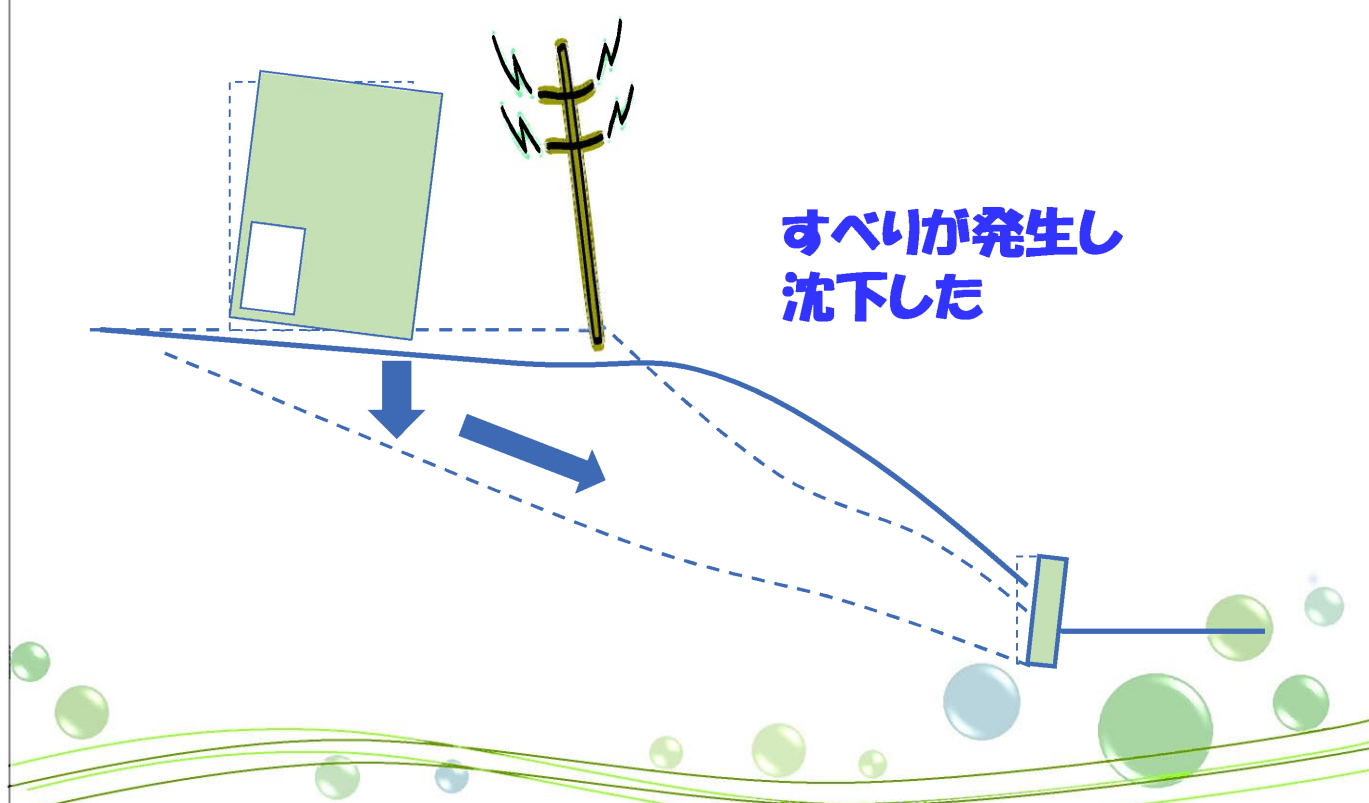
変状形態のチェック(複数可)					
1 クラック(幅)	3cm未満又は単数	1	3~15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面
2 ハラミ・盛ぶくれ(隆起量・規模)	10cm未満又は1宅地ごとののり面等面積に対し10%未満	3	10~30cm未満又は1宅地ごとののり面等面積に対し10~50%未満	4	30cm以上又は1宅地ごとののり面等面積に対し50%以上
3 ガリ・浸食	クラックなどが割目となって雨樋による浸食が見られるなどの段階。	6	のり面の表土が雨樋に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	網穴状や亀裂状にガリが進展して家屋の基礎等ののり面等の下部に被害を及ぼすような状態。
4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの。又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。
5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり枠の間の陥没。又はコンクリート吹付工におそらくにテンションクラックが見られるか吹付土のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破損。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。
6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。
7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が漏出している。				8
8 湧水、落石・転石	☐ 無 ☐ 有+1点(上の点数に1点を加える)				
被害の判定値 (上記の最大値を被害程度の点数とする)					
危険度判定		☆被害程度の点数と危険度判定☆ 小被害: 1~3点(当面は防災上問題なし) 中被害: 4~7点(制限付き立入、進行していれば避難) 大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)			
所見(記入者の意見)	緊急度	(人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)			
拡大の見込	☐ 有 ☐ 無	☐ 判断不可(備考:)			



状況を図に落としてみます。



地震後は……



のり面自然斜面の危険度評価

ここでの変状は、「**滑落・崩壊**」
規模は小さいが
全面的なすべり
程度 → 大

15

判定マ-50 表3-34 のり面自然斜面配点表

程度	のり面自然斜面の配点表		
	小	中	大
1クラック	1	2	3
2ハミ・盤ぶくれ	3	4	5
3ガリー浸食	6	7	8
4滑落・崩落	7	8	9
5のり面保護工の変状	7	8	9
6排水施設の変状	3	5	7
7のり面内の水道管等の破裂			8
8湧水・落石・転石	湧水・落石がなく加算点無し		
最大値	9		

変状点の最大値を抽出する → 9点

被害の評価

- 変状点の合計値

9

- 点数範囲

8～10点

- 判定区分

大

変状等が特に顕著で危険である。

立ち入り禁止措置が必要。

危険宅地

17

- 宅地の側面での判定 4点

→ 危険度区分 中

要注意宅地

- のり面の側面での判定 9点

→ 危険度区分 大

危険宅地

このように、同じ宅地でも評価するもので危険度の内容が変わります。

危険度判定票を作成してみよう

宅地（液状化）編

43

まず周囲を眺めます。



路面舗装変状
波打つ不同沈下



応急復旧
で舗装をはぎ
整地していた

大通りの歩道に噴砂跡……



**全域的な
噴砂現象です**

**下流側に
水平移動**

**建築の応急危
険度は
「危険」**

**家屋は
倒壊寸前**



家屋の裏側は
大きな陥没
深さ50cm

液状化による
隆起 30cm程度



液状化による
沈下 20cm程度

(様式-2)

宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票											
調査日時		年		月		日		時		調査番号	
被害発生場所											
都道府県				市郡				区町村			
地区・団地				丁目				番 号			
所有者・管理者氏名				記入者氏名				TEL:			
所有者・管理者の連絡先 TEL:				居住者への説明				☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅 ☐ 緊急避難 ☐ 済 ☐ 未了			
1. 陥没 2. 陥没 3. 沈下 4. 段差 5. 隆起 6. 陥没 7. 陥没 8. 陥没 9. 陥没 10. 陥没 11. 陥没 12. 陥没											
5. 斜面保護工変状											
6. 排水施設の変状											
被害写真の有無 ☐無 ☐有(写真番号)											
特記事項											

宅地地盤

手引き-16

手引きー17

のり面・自然斜面の基礎的条件									
地盤	岩	土・砂	軟岩	硬岩	不明	オーバーハング	無	有	
			砂質土	礫質土	粘性土	不明	排水施設	無	有 (のり面、小段排水)
のり面高	最大高	m (平均高)	m	のり面保護工	無	植生工	構造物		
(場合のり面は傾斜割合)	うち擁壁高さ	m		擁壁配置	のり面の上部	のり面の中部			
のり面勾配	度				のり面の下部	全面			
のり長さ	m			家屋の有無	上部	有	無	下部	有
									無
変形状態と配点表									
変形状態のチェック (複数可)		小		中		大			
1	クラック (幅)	3cm未満	1	3~15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面	3		
2	陥没 (深さ)	20cm未満	2	20cm~50cm未満	4	50cm以上	6		
3	沈下 (沈下量・規模)	10cm未満	2	10~25cm未満	4	25cm以上	7		
4	隆起 (隆起量)	20cm未満	3	20~50cm未満	5	50cm以上	8		
5	隆起 (隆起量・規模)	20cm未満	7	20~50cm未満	8	50cm以上	9		
6	湧水、噴砂	無	有	有	有	有	有	有	有
変形状態のチェック (複数可)									
1	クラック (幅)	3cm未満又は単数	1	3~15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面	3		
2	ハラミ・盤ぶくれ (隆起量・規模)	10cm未満又は1宅地ごとのり面等面積に対し10%未満	3	10~30cm未満又は1宅地ごとのり面等面積に対し10~50%未満	4	30cm以上又は1宅地ごとのり面等面積に対し50%以上	5		
3	ガリー浸食	クラックなどが割目となって雨樋による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨樋に陥没すると被害が広がるおそれのあるもの。	7	陥没状や亀裂状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下に被害を及ぼすような状態。	8		
4	滑動・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの。又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの。又はのり面底部を含む全崩壊。	9		
5	のり面保護工の変状 (植生工は除く)	例えば、のり枠の間詰の陥没。又はコンクリート吹付工にむき出しにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破損。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9		
6	排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端溝面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7		
7	のり面内の水道管等の破損	破損して水が漏出している。					8		
8	湧水、落石・転石	無	有	有	有	有	有	有	有
被害の判定値 (上記の最大値を被害程度の点数とする)									
危険度判定		口大	口中	口小	危険度の点数と危険度判定				
小被害: 1~3点 (当面は防災上問題なし)									
中被害: 4~7点 (制限付き立入、進行しては避難)									
大被害: 8~10点 (危険、要避難、立入禁止)									
所見 (記入者の意見)	緊急度	口大	口中	口小	(人命・財産・交通の支障を判断基準とする。)				
拡大の見込	口有	口無	口無	(備考)					

宅地地盤の危険度評価

概況は、家屋が水平移動している
 家屋が地震動で倒壊寸前
 沈下 20cm → 中
 陥没 50cm → 大
 隆起 30cm → 中
 周辺全体が 液状化エリア

宅地地盤の危険度評価／隆起・沈下・液状化

表3-9 宅地地盤の配点表

程度	宅地地盤の配点表		
	小	中	大
1クラック(幅)	1	3	5
2陥没(深さ)	2	4	6
3沈下(沈下量・規模)	2	4	7
4段差(段差量)	3	5	8
5隆起(隆起量・規模)	7	8	9
6湧水・噴砂	全体的に液状化エリア 1点加算		
合計値	9		

変状点の最大値を抽出する → 8点

被害の評価

・変状点の合計値

9

・点数範囲

8～10点

・判定区分

大

変状等が特に顕著で危険である。

避難立入禁止措置が必要。

危険宅地

危険度判定票を作成してみよう

擁壁編

29

①



②



③



④



(様式-1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		地震名又は降雨災害名					
都道府県		市区町村					
地区・団地		番 号					
所有者・管理者氏名		記入者氏名					
所有者・管理者の連絡先		TEL:					
TEL:		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅					
応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録							
1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊							
8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状							
建物・道路との位置関係(基礎点)							
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							

調査票	☐ コンクリート系擁壁 ☐ 石積み擁壁 ☐ 土留め擁壁 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ 可動式 ☐ 可動式 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ 可動式 ☐ 可動式 ☐ その他	擁壁部分 擁壁高 m 基礎高 m 上部高 m 下部高 m 上部高 m 下部高 m 上部高 m 下部高 m	基礎部分 基礎高 m 上部高 m 下部高 m 上部高 m 下部高 m 上部高 m 下部高 m	
	☐ 基礎部分 ☐ 基礎高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m	☐ 基礎部分 ☐ 基礎高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m	☐ 基礎部分 ☐ 基礎高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m	☐ 基礎部分 ☐ 基礎高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m	☐ 基礎部分 ☐ 基礎高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m	☐ 基礎部分 ☐ 基礎高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m ☐ 上部高 m ☐ 下部高 m
基礎点	1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊	1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊	1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊	1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊	1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊	1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊
	8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状	8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状	8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状	8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状	8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状	8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状
危険度判定	1.クラック(幅) 2.水平移動 3.不同沈下(目地の開き) 4.ハラミ 5.傾斜(傾斜角) 6.倒壊(倒壊角) 7.崩壊(崩壊角) 8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状					1.クラック(幅) 2.水平移動 3.不同沈下(目地の開き) 4.ハラミ 5.傾斜(傾斜角) 6.倒壊(倒壊角) 7.崩壊(崩壊角) 8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状
	1.クラック(幅) 2.水平移動 3.不同沈下(目地の開き) 4.ハラミ 5.傾斜(傾斜角) 6.倒壊(倒壊角) 7.崩壊(崩壊角) 8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状					1.クラック(幅) 2.水平移動 3.不同沈下(目地の開き) 4.ハラミ 5.傾斜(傾斜角) 6.倒壊(倒壊角) 7.崩壊(崩壊角) 8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状

31

(様式-1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		地震名又は降雨災害名					
都道府県		市区町村					
地区・団地		番 号					
所有者・管理者氏名		記入者氏名					
所有者・管理者の連絡先		TEL:					
TEL:		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅					
写真・図より		応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録					
1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊							
8.張出し床板付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状							
建物・道路との位置関係(基礎点)							
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							

32

[平面図]

[断面図]

被災写真の有無	☐ 無	☒ 有→写真番号 [7-①～④]	
特記事項			

33

擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	擁壁の基礎的条件		基礎点計 ①+②+③		
		擁壁の種類	擁壁の基礎的条件			
基礎点	☐ コンクリート系擁壁 ☐ 練石積擁壁 ☒ 空石積擁壁	☐ LG逆T型 ☐ もたれ式 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ 増積み擁壁	☐ 二段擁壁 ☐ 張出し床版付擁壁 ☐ その他	☐ 影響範囲に建物または道路がある ☐ 影響範囲に建物または道路がない(B)	
		☐ 場所打ち ☐ フレキャスト ☐ 間地石 ☐ コンクリートブロック ☐ その他	☐ 二段擁壁 ☐ 張出し床版付擁壁 ☐ その他			
	☒ 空石積擁壁 ☐ 間地石 ☐ その他	☐ 玉石積 ☐ くずれ石積 ☒ 間地石 ☐ その他	☐ 増積み擁壁 ☐ 二段擁壁 ☐ 張出し床版付擁壁 ☐ その他	☐ 増積み擁壁 ☐ 二段擁壁 ☐ 張出し床版付擁壁 ☐ その他	☐ 増積み擁壁 ☐ 二段擁壁 ☐ 張出し床版付擁壁 ☐ その他	
		擁壁の設置条件		擁壁の勾配		
		☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 他 ☐ 不明		☐ 度 又は (1 :)		
		☒ 影響範囲に建物または道路がある ☐ 影響範囲に建物または道路がない(B)		☐ 影響範囲に建物または道路がある ☐ 影響範囲に建物または道路がない(B)		
		①湧水	乾燥 湿潤 にじみ出し、流出	0 0.4 0.8	0 0.2 0.4	基礎点計 ①+②+③ 1.0
		②排水施設	木抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透防止	0	0	
			木抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい	0.4	0.2	
			木抜孔無、あっても数・寸法が不適当	0.8	0.4	
③高さ	H≤1m	0	0			
	1m<H≤3m	0.2	0.1			
	3m<H≤4m	0.4	0.2			
	4m<H≤5m	0.6	0.3			
	5m<H	0.8	0.4			

空石積は構造的に水抜孔の効果がある為、天端状況で判断。

写真より

図より

34

35

石積崩壊による家屋損傷の恐れあり

36

危険度判定票を作成してみよう

宅地編／擁壁編

37

①



①近



②



②近



③



④



⑤



⑥



39

(様式-1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県 市 区 町 村					
所有者・管理者氏名		地区 団地 丁目 番 号					
TEL:		TEL:					
居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅					
<被災状況の記入> ☐ 応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録							
1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の崩壊 7.擁壁の陥没							
8.3面以上崩壊の状況の記載 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状							
建物・道路との位置関係(基礎点)							
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全写真撮影を撮影する。							
被害写真の有無				☐ 無 ☐ 有一写真番号 []			
特記事項							

調査項目	☐ 崩壊・倒壊 ☐ コンクリート系擁壁 ☐ 鉄骨系擁壁 ☐ 石積系擁壁 ☐ 土留系擁壁		☐ 杭式 ☐ アクリル ☐ シンクリート ☐ シンクリート ☐ シンクリート		☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録		☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録	
	☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録		☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録		☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録		☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録 ☐ 簡易記録	
基礎	☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎		☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎		☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎		☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎	
	☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎		☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎		☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎		☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎 ☐ 基礎	
状況	☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況		☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況		☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況		☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況	
	☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況		☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況		☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況		☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況 ☐ 状況	
危険度判定	☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定		☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定		☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定		☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定	
	☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定		☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定		☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定		☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定 ☐ 危険度判定	
被害写真の有無		☐ 無 ☐ 有一写真番号 []		☐ 無 ☐ 有一写真番号 []		☐ 無 ☐ 有一写真番号 []		
特記事項								

40

(様式－1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
		地震名又は降雨災害名					
被害発生場所	都道府県		市郡		区町村		
	地区・団地		丁目		番 号		
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL：			
所有者・管理者の連絡先		TEL：		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅	
写真・図より		<被災状況図>				応急措置 ☐ 済 ☒ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録	
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.ハラミ	5-1.傾斜	5-2.倒壊	6.擁壁の折損
7.崩壊	8.張出し床版付擁壁の支柱の損傷		9.基礎及び基礎地盤の被害		10.排水施設の変状		
						建物・道路との位置関係(基礎点) 	

※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。
 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。

41

[平面図]

[断面図]

被災写真の有無	☐ 無 ☒ 有→写真番号 [14-①～③]
特記事項	

42



擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	☒ コンクリート系擁壁	☒ L(逆T)型 ☐ 重力式	☐ 増積み擁壁	増積み部分[]
			☐ もたれ式 ☐ その他		擁壁部分[]
			☒ 場所打ち ☐ プレキャスト		全擁壁高 m 増設高 m
		☐ 練石積擁壁	☐ 間地石 ☐ コンクリートブロック	☐ 二段擁壁	上部[] 下部[] 上部高 m ; 下部高 m
	☐ 空石積擁壁	☐ 玉石積 ☐ くずれ石積	☐ 張出し床版付擁壁	☐ その他[]	
		☐ 間地石 ☐ その他[]	擁壁の設置条件	☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 他 ☐ 不明	
			擁壁の勾配	度 又は (1 :)	
基礎点	①湧水	乾燥	☒ 影響範囲に建物または道路がある	0	0
		湿潤	☐ 影響範囲に建物または道路がない(B)	0.4	0.2
		にじみ出し、流出		0.8	0.4
	②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止		0	0
		水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい		0.4	0.2
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適当		0.8	0.4
	③高さ	H ≤ 1m		0	0
		1m < H ≤ 3m	図より	0.2	0.1
		3m < H ≤ 4m		0.4	0.2
		4m < H ≤ 5m		0.6	0.3
5m < H			0.8	0.4	
					基礎点計 ①+②+③ 0.2



区分	項目	小						中						大											
		クラック	傾斜・倒壊	擁壁の折損	崩壊	張り出し基礎の擁壁の支保脚	基礎及び基礎地盤の被害	排水施設の状況	擁壁前面の水溜り等破損	クラック	傾斜・倒壊	擁壁の折損	崩壊	張り出し基礎の擁壁の支保脚	基礎及び基礎地盤の被害	排水施設の状況	擁壁前面の水溜り等破損	クラック	傾斜・倒壊	擁壁の折損	崩壊	張り出し基礎の擁壁の支保脚	基礎及び基礎地盤の被害	排水施設の状況	擁壁前面の水溜り等破損
変状形態と変状点	1 クラック	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	2 水移動	2	2.5	3.5	4	6	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	3 不況下・土地の開き	3	3.5	4	5	7	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
	4 ハラミ	4	4.5	5	6	8	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		
	5 傾斜・倒壊	5	5.5	6	7	8	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		
	6 擁壁の折損	6	6.5	7	8	9	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24			
	7 崩壊	7	7.5	8	9	10	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24				
	8 張り出し基礎の擁壁の支保脚	8	8.5	9	10	11	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24					
	9 基礎及び基礎地盤の被害	9	9.5	10	11	12	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24						
	10 排水施設の状況	10	10.5	11	12	13	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24							
	11 擁壁前面の水溜り等破損	11	11.5	12	13	14	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24								
変状の程度	1 クラック幅	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)						2mm~20mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm~5mm未満)						20mm~50mm未満(コンクリート系擁壁の場合5mm~10mm未満)											
	2 水移動	5mm未満の水溜り変化がある。						5mm~20mm未満の水溜り変化がある。						20mm~50mm未満の水溜り変化がある。											
	3 不況下・土地の開き	5mm未満の土地上下のずれ又は土地の開きがある。						5mm~20mm未満の土地上下のずれ又は土地の開きがある。						20mm~50mm未満の土地上下のずれ又は土地の開きがある。											
	4 ハラミ	小規模のハラミ及び傾斜が1~2度以下である。						中規模のハラミ及び傾斜が2~5度以下である。						大規模のハラミ及び傾斜が5度以上である。											
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面傾斜に対して垂直以下(コンクリート系擁壁の場合、傾斜が50mm未満の傾斜)						擁壁が前面傾斜に対して垂直以上(コンクリート系擁壁の場合、傾斜が50mm以上の傾斜)						擁壁が前面傾斜に対して垂直以上(コンクリート系擁壁の場合、傾斜が50mm以上の傾斜)											
	6 擁壁の折損	クラックを境にわずかに傾斜をなしている(コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに傾斜している。)						クラックを境に明らかに傾斜をなしており、傾斜がコンクリートが現れる(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に傾斜している。)						一見して大であると判るもの(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に傾斜している。又は、1mmでも傾斜が傾斜があり傾斜している。)											
	7 崩壊	崩壊部を境に傾斜している。						崩壊部を境に傾斜している。						崩壊部を境に傾斜している。											
	8 張り出し基礎の擁壁の支保脚	支保脚が傾斜している。						支保脚が傾斜している。						支保脚が傾斜している。											
	9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。						中規模な沈下やクラックが生じている。						小規模な沈下やクラックが生じている。											
	10 排水施設の状況	排水設備が正常に機能している。						排水設備が正常に機能している。						排水設備が正常に機能している。											
	11 擁壁前面の水溜り等破損	破損して水が溜り出している。						破損して水が溜り出している。						破損して水が溜り出している。											
被害の判定値	基礎点 + 変状点 0.2 + 6.0 = 6.2 点																								
	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害: 0 点(防災上問題無し) 小被害: 1 ~ 4.5 点未満(当面は防災上問題無し) 中被害: 4.5 ~ 8.5 点未満(制限付き立入、進行していれば避難) 大被害: 8.5 点~(危険、要避難、立入禁止)																								
危険度判定	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小 ☐ 無																								
	所収記入者の意図 ☒ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可																								

調 査 票	調査日時 年 月 日 時 調査番号
	地質名又は降雨災害名
被害発生場所	都 道 府 県 市 郡 区 町 村 地区 閉地 丁目 番 号
所有者・管理者氏名	記入者氏名 TEL:
所有者・管理者の連絡先	居住者への説明 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅
<被災状況図>	
1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.傾斜 4.ハラム 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊 8.盛土・切削被害の状況の描画 9.高浸水及び高浸水後の被害 10.漏水被害の状況	応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全貌写真を撮影する。	
[平面図] [断面図]	
被災写真の有無 ☐ 無 ☒ 有→写真番号 [14-(1)~(3)]	
特記事項	

[illegible]

調 査 票		調査日時		年 月 日		時 調査番号	
被災発生場所		調査区域		市 町 村		区 町 村	
所有者・管理者氏名		地区・団体		丁目		番 号	
所有者・管理者の連絡先 TEL:		記入者氏名		TEL:			
		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅			
<被災状況図>				☐ 応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録			
宅 地 地 盤				の り 面 ・ 自然斜面			
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.懸ぶち
3.ガリ・段差	4-1.滑落	4-2.崩壊					
5.のり面保護工の状況				6.排水施設の状況			
 管内上り線側 (詳細あり)							
※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができます。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を宅地地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
【平面図】				【断面図】			
被災写真の有無				☐ 無 ☐ 有一写真番号			
特 記 事 項							

のり面・自然斜面の基礎的要件									
地盤	岩	□軟岩 □硬岩 □不明	オーバーハンジ		□無 □有				
	土 砂	□砂質土 □礫質土 □粘性土 □不明	排水施設		□無 □有(のり、小段排水)				
のり面高 (表高のり面は護岸高)	最大高	m(平均高)	のり面保護工		□無 □施工 □構造物				
	うち擁壁高	m	擁壁配置		□のり面の上部 □のり面の中部 □のり面の下部 □全面				
のり面勾配	度		変異の有無		上部 □下部 □無 □有				
のり長さ	m								
変 状 形 態 と 配 点 表									
定 地 地 盤	変形状態のチェック(取数可)		小		中		大		
	1 クラック(幅)	3cm未満	1	3~15cm未満又は複数	3	15cm以上又は全面	5		
	2 陥没(深さ)	20cm未満	2	20~50cm未満	4	50cm以上	6		
	3 沈下(沈下量)	10cm未満	2	10~25cm未満	4	25cm以上	7		
	4 段差(段差幅)	20cm未満	3	20~50cm未満	5	50cm以上	8		
	5 隆起(隆起量)	20cm未満	7	20~50cm未満	8	50cm以上	9		
	6 湧水、噴砂	□無 □有→1点以上の点数に1点加える							
のり面・自然斜面	変形状態のチェック(取数可)		小		中		大		
	1 クラック(幅)	3cm未満又は単数	1	3~15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面	3		
	2 ハラ(隆起量)	10cm未満	3	10~30cm未満	1	30cm以上	5		
	3 ガリ・反食	クラックなどが通因りとなって雨涵による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の土が崩壊に陥没するなど放置されていると被害が広がるおそれのあるもの。	7	割欠けや滝突けがガリや進展して家屋の基礎等のり面等の下に被害を及ぼすような状態。	8		
	4 溶落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでより取れるような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに底面のすべりがあるもの、又はのり面底部を又含む崩壊。	9		
	5 のり面保護工の変状(施工工は除く)	例えば、のり枠の固結の陥没、又はコンクリート吹付けをわずかにテションクラックが見られるが変状工の損壊は認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分で破損、又はコンクリート吹付けのクラック部分が陥没、ずれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破壊、又はコンクリート吹付けはコン全額が露出し、コンクリート吹付け面にも破損が見受けられる。	9		
	6 排水施設の变状	人漏排水溝に欠け、欠損がある。又は、天端背面、漏突孔のクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は日陰からの湧水がある。	5	排水溝が破損されるなど、排水機能が失われる。	7		
7 のり面内の水涵管等の設置	破綻して水が流出している。								
8 湧水、落石・転石	□無 □有→1点以上の点数に1点加える								
被害の判定記録 ※表裏面とも調査した箇所を判定した取数 ※表裏面とも調査しなかった箇所は○で記入 点 無被害: 0 点(防災上問題無し) 小被害: 1~3 点(当面は防災上問題無し) 中被害: 4~7 点(面崩待付立。速行して10日以内) 大被害: 8~10 点(危険、要避難、立入禁止) 危険度判定 □大 □中 □小 □無									
所定記入人の定印 ※所定記入人以外が記入した場合は無効 緊急度 □大 □中 □小 最大の見込 □有 □無 □情報可不明 (備考)									

<被災状況図>										応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録	
宅地地盤					のり面・自然斜面						
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラム	2-2.盤よくれ	3.カー浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊	
5.のり面保護工変状		6.排水施設の変状		※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
[平面図]						[断面図]					
被災写真の有無 ☐ 無 ☒ 有→写真番号 [14-④~⑥]											
特記事項											

47

のり面・自然斜面の基礎的条件								
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明		オーバーハング	☐ 無 ☐ 有			
	土 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明		排水施設	☐ 無 ☒ 有(のり肩、小段排水)			
のり面高 (複合のり面は擁壁高含)		最大高	m(平均高 m)		のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物		
		(うち擁壁高 m)		擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部			
のり面勾配		度			☐ のり面の下部 ☐ 全面			
のり長さ		m		家屋の有無	上部 ☐ 有 ☐ 無 : 下部 ☐ 有 ☐ 無			
写真・図より 変 状 形 態 と 配 点 表								
宅 地 地 盤	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大	
	1	クラック(幅)	3 cm未満	1	3～15cm 未満又は 複数	3	15cm 以上又は全面	5
	2	陥没(深さ)	20 cm未満	2	20～50 cm未満	4	50 cm以上	6
	3	沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10～25 cm未満	4	25 cm以上	7
	4	段差(段差量)	20 cm未満	3	20～50 cm未満	5	50 cm以上	8
	5	隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20～50 cm未満	8	50 cm以上	9
	6	湧水、噴砂	☒ 無 ☐ 有→+ 1 点(上の点数に 1 点加える)					

48

50

・宅地擁壁の定義での判定 6.2点

⇒判定区分「中」

要注意宅地

・宅地地盤の定義での判定 7点

⇒判定区分「中」

要注意宅地

令和5年度版

被災宅地危険度判定士養成講習会 (演習問題)

被災宅地危険度判定士養成講習会

- 被災宅地危険度判定連絡協議会 -
国土館大学理工学部教授 橋本 隆雄作成

【例題-2】 擁壁パターン(2)

例題-2（現場写真）

①



②



③



④

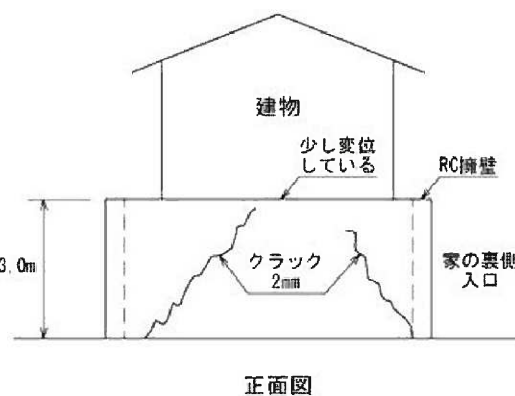
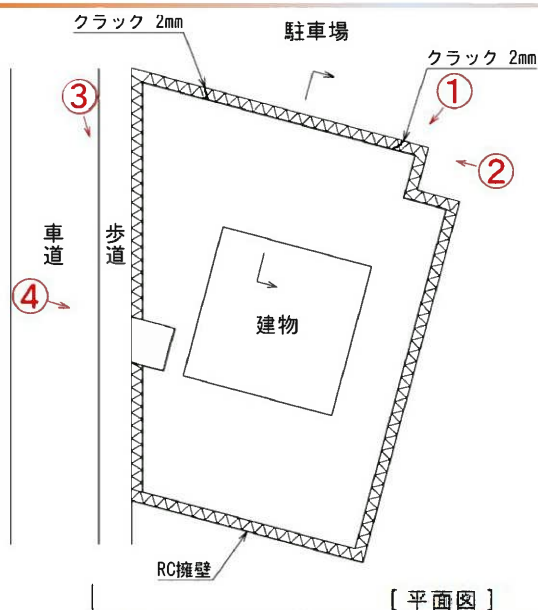


例題-2

(様式-1) 壁被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時		年	月	日	時	調査番号	
被害発生場所		調査名又は隣街調査名		都 道 府 県					
		地区 町 地		市 部		区 町 村			
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL :					
所有者・管理者の連絡先		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅					
TEL :									
< 破 壊 状 況 図 >									
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.日池の陥没	4.ハラミ	5-1.転倒	5-2.傾斜	6.接壁の折裂	7.層間	8.緊急措置
								9.破災	10.簡易記録
								建物・道路との位置関係(基礎位置) 北側道路側 南側道路側 歩道・自転車道	
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができます。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる金属写真を撮影する。									
正面図 側面図									
〔平面図④〕 〔側面図④〕									
被災写真の有無 ☐ 無 ☐ 有 一写真番号 [									
特記事項									

例題-2 (解答)



被災写真の有無 ☐ 無 ☒ 有 → 写真番号 [

特記事項

解説

擁壁タイプは、写真・図から現場打コンクリート擁壁であることがわかります。

例題-2

検査の基礎的項目	☐ コンクリート系擁壁 ☐ 石積み擁壁 ☐ 土留め擁壁 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ 可動式 ☐ その他	☐ 増設/補修 ☐ 新設	増設/補修 増設/補修 増設/補修
	☐ コンクリート系擁壁 ☐ 石積み擁壁 ☐ 土留め擁壁 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ 可動式 ☐ その他	☐ 増設/補修 ☐ 新設	増設/補修 増設/補修 増設/補修
基礎的項目	① 湧水 ② 漏水 ③ 高さ			
区分	① クラック ② 水平移動 ③ 不同沈下・目地の開き ④ ハラミ ⑤ 傾斜・倒壊 ⑥ 擁壁の折損 ⑦ 崩壊 ⑧ 湧き出し床版付擁壁の支柱の損傷 ⑨ 基礎及び基礎地盤の被害 ⑩ 排水施設の変状 ⑪ 擁壁前面の水道管等被害			
被害状況	① クラック ② 水平移動 ③ 不同沈下・目地の開き ④ ハラミ ⑤ 傾斜・倒壊 ⑥ 擁壁の折損 ⑦ 崩壊 ⑧ 湧き出し床版付擁壁の支柱の損傷 ⑨ 基礎及び基礎地盤の被害 ⑩ 排水施設の変状 ⑪ 擁壁前面の水道管等被害			
危険度判定	危険度の判定値 危険度の判定値 危険度の判定値			

例題-2（解答）

（様式－1）擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県					
所有者・管理者氏名		市郡					
所有者・管理者の連絡先		区町村					
TEL:		地区団地					
記入者氏名		丁目					
TEL:		番					
TEL:		号					
緊急措置		☐ 済 ☒ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録					
写真、断面図より		被災状況図					
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.ハラミ	5-1.傾斜	5-2.倒壊	6.擁壁の折損
7.崩壊	8.湧き出し床版付擁壁の支柱の損傷	9.基礎及び基礎地盤の被害	10.排水施設の変状	建物・道路との位置関係(基礎点)			
				影響範囲外(B) 影響範囲(A) 影響範囲外(B)			
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							

解説

被害状況図には、写真・図よりクラックと傾斜を生じていますので○を付けてください。

影響範囲は擁壁の下が道路で建物が擁壁から2 mにあるため、Aとなります。

例題-2（解答）

擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	☒ コンクリート系擁壁	☒ L型 ☐ 重力式 ☐ もたれ式 ☐ その他	☐ 増積み擁壁	増積部分 擁壁部分 全壁高	m 増設高 m
		☐ 煉石積擁壁	☐ 場所打ち ☐ プレキャスト ☐ 間地石 ☐ コンクリートブロック ☐ その他	☐ 二段擁壁	上部 下部 上部高 m; 下部高 m	
		☐ 空石積擁壁	☐ 玉石積 ☐ 間地石 ☐ くずれ石積 ☐ その他	☐ 掘出し床版付擁壁	☐ その他	
		擁壁の設置条件		☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 他 ☐ 不明		
		擁壁の名称		度又は(1:)		
基礎点	② 湧水	乾燥	0	0	基礎点計 ①+②+③ 1.0	
		湿潤	0.4	0.2		
		にじみ出し、流出	0.8	0.4		
		水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止	0	0		
		水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい	0.4	0.2		
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適当	0.8	0.4		
		H≤1m	0	0		
		1m<H≤3m	0.2	0.1		
		3m<H≤4m	0.4	0.2		
		4m<H≤5m	0.6	0.3		
③ 高さ	5m<H	0.8	0.4			

解説

基礎点は、湧水がなく乾いているので0点、水抜き穴はあるが1ヶ所/3m²無いので0.8点、擁壁高さが3mなので0.2点、合計1.0点となります。

例題-2（解答）

区分	項目	小					中					大					
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
変状形態と変状点	1 クラック	1	2	3	4	5	2.5	3.5	4	5	7	4	5	6	7	8	9
	2 水平移動	2	2.5	3.5	4	6	3.5	4	4.5	5	7	5	5.5	6	7	9	9
	3 不均沈下・目地の開き	3	3.5	4	5	7	4.5	5	6	7	9	6	7	8	9	10	10
	4 ハラミ	4	4.5	5	6	8	5	6	7	8	9	8	9	10	10	10	10
	5 傾斜・倒壊	5	5.5	6	7	8	7	8	9	10	10	8	9	10	10	10	10
	6 擁壁の折損	6	6.5	7	8	9	7	8	9	10	10	8	9	10	10	10	10
	7 崩壊	7	7.5	8	9	10	8	9	10	10	10	9	10	10	10	10	10
	8 張り出し床版付擁壁の柱の損傷	8	8.5	9	10	10	9	10	10	10	10	9	10	10	10	10	10
	9 基礎及び基礎地盤の被害	9	9.5	10	10	10	9	10	10	10	10	9	10	10	10	10	10
	10 排水設備の変状	10	10.5	11	11.5	12	10	11	11.5	12	12	10	11	11.5	12	12	12
	11 擁壁背面の水害等被害	11	11.5	12	12.5	13	11	12	12.5	13	13	11	12	12.5	13	13	13
変状の程度	1 クラック	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)	2mm~5mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm~5mm未満)	5mm以上(コンクリート系擁壁の場合5mm以上)	20mm以上(コンクリート系擁壁の場合20mm以上)	50mm以上(コンクリート系擁壁の場合50mm以上)											
	2 水平移動	5mm未満の隙間変位がある。	5mm~50mm未満の隙間変位がある。	50mm~100mm未満の隙間変位がある。	100mm以上の隙間変位がある。	500mm以上の隙間変位がある。											
	3 不均沈下・目地の開き(目地上下・左右の開き)	5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。	5mm~50mm未満の目地の上下のずれ又は目地の開きがある。	50mm~100mm未満の目地の上下のずれ又は目地の開きがある。	100mm以上の目地の上下のずれ又は目地の開きがある。	500mm以上の目地の上下のずれ又は目地の開きがある。											
	4 ハラミ(デシジョンクラック・ずれ・中凹力)	小規模のハラミ及び凹み(凹み深さ10mm未満)	中規模のハラミ及び凹み(凹み深さ10mm~50mm未満)	大規模のハラミ及び凹み(凹み深さ50mm~100mm未満)	特大規模のハラミ及び凹み(凹み深さ100mm以上)	500mm以上のハラミ及び凹み(凹み深さ500mm以上)											
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面地盤に斜めに傾斜している。	擁壁が前面地盤に斜めに傾斜している。	擁壁が前面地盤に斜めに傾斜している。	擁壁が前面地盤に斜めに傾斜している。	擁壁が前面地盤に斜めに傾斜している。											
	6 擁壁の折損	クラックを境にわずかに角度をなしている。	クラックを境に明らかに角度をなしている。	クラックを境に明らかに角度をなしている。	クラックを境に明らかに角度をなしている。	クラックを境に明らかに角度をなしている。											
	7 崩壊	中凹力から上がっている。	中凹力から上がっている。	中凹力から上がっている。	中凹力から上がっている。	中凹力から上がっている。											
	8 張り出し床版付擁壁の柱の損傷	支柱にひびが入っている。	支柱にひびが入っている。	支柱にひびが入っている。	支柱にひびが入っている。	支柱にひびが入っている。											
	9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。	大規模な沈下やクラックが生じている。	大規模な沈下やクラックが生じている。	大規模な沈下やクラックが生じている。	大規模な沈下やクラックが生じている。											
	10 排水設備の変状	天端排水が滞り、欠損がある。又は天端背面にクラックが見られる。	天端排水が滞り、欠損がある。又は天端背面にクラックが見られる。	天端排水が滞り、欠損がある。又は天端背面にクラックが見られる。	天端排水が滞り、欠損がある。又は天端背面にクラックが見られる。	天端排水が滞り、欠損がある。又は天端背面にクラックが見られる。											
	11 擁壁背面の水害等被害	浸透して水が流出している。	浸透して水が流出している。	浸透して水が流出している。	浸透して水が流出している。	浸透して水が流出している。											
被害の判定値	基礎点 + 変状点					☆被害程度の点数と危険度判定☆											
	1.0 + 5.0					無被害: 0点(防災上問題無し)											
	= 6.0					小被害: 1~4.5点未満(当面は防災上問題無し)											
						中被害: 4.5点~8.5点未満(制限付き立入、進行していれば避難)											
危険度判定	○大 ○中 ○小 ○無					大被害: 8.5点~(危険、要避難、立入禁止)											
	所見記入者の意見					人命・財産・交通の3点を判定基準とする。											

解説

変状点は写真・図よりクラックが2mmで2.5点、擁壁の傾斜が天端で50mm未満なので5.0点となります。したがって、被害の判定値は、基礎点が1.0点、変状点が5.0点となるため、合計6.0点の中被害となります。緊急度は中、拡大の見込み無となります。

【例題-8】 宅地地盤パターン(1)

61

例題-8（現場写真）

①



①近



①



①近



例題-8（現場写真）

②



②近



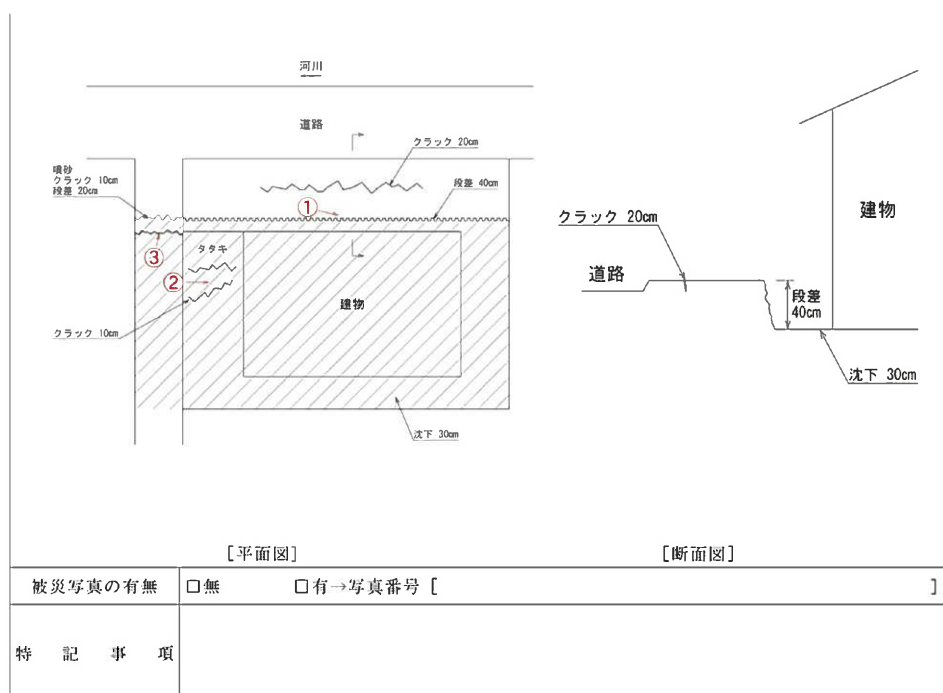
③



③近



例題-8（解答）



解説
宅地地盤は、道路側に20cmのクラック、建物周辺に段差40cm、沈下30cmを生じています。

(様式-2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時 年 月 日 時		調査番号	
被害発生場所		都道府県		市郡	
所有者・管理者氏名		地区 団地		丁目 番 号	
所有者・管理者の連絡先		記入者氏名		TEL:	
TEL:		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅	
被災状況図				応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録	
宅地地盤		のり面・自然斜面			
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	6.排水施設の変状
※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。					
[平面図]			[断面図]		
被災写真の有無 ☐ 無 ☐ 有(写真番号)					
特記事項					

のり面・自然斜面の基礎的条件		オーバーハング		☐ 無 ☐ 有	
地盤	☐ 軟弱 ☐ 硬質 ☐ 不明 ☐ 砂質土 ☐ 粘質土 ☐ 不明	排水施設	☐ 無 ☐ 有(のり面、小段排水)		
のり面高	最大高 (m) 平均高 (m)	のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生上 ☐ 護造物		
のり面勾配	最大勾配 (度)	擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部 ☐ のり面の下部 ☐ 全面		
のり面長さ	m	家屋の有無	☐ 有 ☐ 無 ☐ 下部 ☐ 有 ☐ 無		
変状形態と配点表					
変状形態のチェック(複数可)		小		大	
1 クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15 cm未満又は複数	3	15 cm以上又は全面
2 陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm未満	4	50 cm以上
3 沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm未満	4	25 cm以上
4 段差(段差高)	20 cm未満	3	20~50 cm未満	5	50 cm以上
5 隆起(隆起高)	20 cm未満	7	20~50 cm未満	8	50 cm以上
6 湧水、噴砂	☐ 無 ☐ 有(1点(上の点数に1点加える))				
変状形態のチェック(複数可)		小		大	
1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未満又は複数	2	15 cm以上又は全面
2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm未満	4	30 cm以上
3 ガリ-浸食	クラックなどが亀裂となって雨水による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨水により流失している状態。放置していると被害が広がるおそれがあるもの。	7	洞穴状や陥凹状にガリ-が進展して家屋の基礎やのり面等の下面に被害を及ぼすような状態。
4 崩落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んで表層が剥離したような状態。放置すると拡大するおそれがあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。
5 のり面保護工の変状(植生は除く)	例えば、のり面の間詰め陥没、又はコンクリート吹付工にわずかにレンショウクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり面の部分的な破損、又はコンクリート吹付工のクラック部分が陥没、ずれが見受けられる。	8	例えば、のり面のすべり崩壊、又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付工にも破損が見受けられる。
6 排水施設の変状	天端排水溝にすべり、欠損がある。又は、天端排水溝、継ぎ目にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの雨水がある。	5	排水溝が破断陥下するなど、排水機能が失われている。
7 のり面内の水通等々の破損	破損して水が流出している。				
8 湧水、湧砂・転石	☐ 無 ☐ 有(1点(上の点数に1点加える))				
被災の判定値		合被害程度の点数と危険度判定 無被害: 0点(防災上問題無し) 小被害: 1~3点(当面は防災上問題無し) 中被害: 4~7点(制限付き立入、通行しては可) 大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)			
危険度判定		☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無			
所見記入者の意見		緊急度 ☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。) 被害状況の明記に必要 ☐ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可 (備考:)			

65

例題-8 (解答)

(様式-2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時 年 月 日 時		調査番号	
被害発生場所		都道府県		市郡	
所有者・管理者氏名		地区 団地		丁目 番 号	
所有者・管理者の連絡先		記入者氏名		TEL:	
TEL:		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅	
写真・図より被災状況図				応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録	
宅地地盤		のり面・自然斜面			
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	6.排水施設の変状
5.のり面保護工変状		6.排水施設の変状			
※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。					

解説

被災状況図は写真・図から クラック・沈下・段差に○をつけます

例題-8（解答）

河川

道路

クラック 20cm

段差 40cm

沈下 30cm

噴砂
クラック 10cm
段差 20cm

クラック 10cm

タタキ

建物

建物

道路

クラック 20cm

段差 40cm

沈下 30cm

[平面図]

[断面図]

被災写真の有無 ☐ 無 ☐ 有→写真番号 []

特記事項

解説
宅地地盤は、道路側に20cmのクラック、建物周辺に段差40cm、沈下30cmを生じています。

例題-8（解答）

のり面・自然斜面の基礎的条件								
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明		オーバーハング	☐ 無 ☐ 有			
	土 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明		排水施設	☐ 無 ☐ 有(のり肩、小段排水)			
のり面高 (複合のり面は擁壁高含)		最大高 m(平均高 m)		のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物			
		(うち擁壁高 m)			☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部			
のり面勾配		度		擁壁配置	☐ のり面の下部 ☐ 全面			
のり長さ		m			家屋の有無 上部 ☐ 有 ☐ 無 : 下部 ☐ 有 ☐ 無			
変 状 形 態 と 配 点 表					写真・図より			
宅 地 地 盤	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大	
	1	クラック(幅)	3 cm未満	1	3～15cm 未満又は 複数	3	15cm 以上又は全面	5
	2	陥没(深さ)	20 cm未満	2	20～50 cm未満	4	50 cm以上	6
	3	沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10～25 cm未満	4	25 cm以上	7
	4	段差(段差量)	20 cm未満	3	20～50 cm未満	5	50 cm以上	8
	5	隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20～50 cm未満	8	50 cm以上	9
	6	湧水、噴砂	☐ 無 ☒ 有→+ 1 点(上の点数に 1 点加える)			図より		

写真・図より

図より

解説

宅地地盤の変状は写真・図より、クラックの最大が20cmなので5点、最大沈下量が30cmなので7点、最大段差量が40cmなので5点となります。

図から噴砂があるので有にチェックをつけます。

例題-8 (解答)

変形状態のチェック(複数可)	小	中	大
1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	3~15 cm未満又は複数	15 cm以上又は全面
2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	10~30 cm未満	30 cm以上
3 ガリー浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	洞穴状や滝壺状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。
4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。
5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり枠の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。
6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3番沈下 7点 + 6番噴砂 1点 からの湧水がある。	失われている。
7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。		
8 湧水、落石・転石	□無 □有→+1点(上の点数に1点加える)		
被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記録無し	8 点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害: 0 点(防災上問題無し) 小被害: 1~3点(当面は防災上問題無し) 中被害: 4~7点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)	
危険度判定	☒ 大 □中 □小 □無		
所見記入者の意見 ※無被害の場合は記録無し	緊急度 ☒ 大 □中 □小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)	拡大の見込 ☒ 有 □無 □判断不可 (備考:)	

解説
宅地地盤の判定値は、変状点の最大である沈下量の7点に噴砂の点数1点を加えた合計8点となり、大被害となります。緊急度は大、拡大の見込み有となります。

【例題-10】 自然斜面パターン(1)

例題-10

のり面・自然斜面の基礎的条件									
地盤	岩	砂	砂質土	砂質土	砂質土	砂質土	砂質土	砂質土	砂質土
のり面高	最大高	m(平均高)	のり面保工	のり面保工	のり面保工	のり面保工	のり面保工	のり面保工	のり面保工
のり面勾配	度		保工位置	保工位置	保工位置	保工位置	保工位置	保工位置	保工位置
のり長さ	m		水浸の有無	水浸の有無	水浸の有無	水浸の有無	水浸の有無	水浸の有無	水浸の有無
変状形態と配点表									
変状形態のチェック(複数可)									
小									
中									
大									
1 クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15 cm未満又は	3	15 cm以上又は全面	5			
2 陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm未満	4	50 cm以上	6			
3 沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm未満	4	25 cm以上	7			
4 段差(段差量)	20 cm未満	3	20~50 cm未満	5	50 cm以上	8			
5 隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20~50 cm未満	8	50 cm以上	9			
6 湧水、噴砂	□無 □有+1点(上の点数に1点加える)								
変状形態のチェック(複数可)									
小									
中									
大									
1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未満又は複	2	15 cm以上又は全面	3			
2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm未満	4	30 cm以上	5			
3 ガリ浸食	クラックなどが基	6	のり面の表土が極	7	陥没状や隆起状に	8			
4 滑落・崩壊	面分的な変状すべ	7	表層すべりが進ん	8	全面的なすべり崩	9			
5 のり面保工の変状	例えば、のり面の	7	例えば、のり面の	8	例えば、のり面の	9			
6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ	3	左に加え、のり面	5	排水溝が破断沈下	7			
7 のり面内の水溜まり等の被害	破綻して水が漏出している。								
8 湧水、常石、転石	□無 □有+1点(上の点数に1点加える)								
被災者の判定値									
危険度判定									
緊急度									
被災者の判定値									
被災者の判定値									

例題-10 (解答)

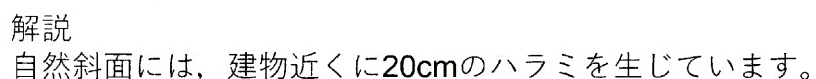
(様式-2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県 市郡 区町村					
所有者・管理者氏名		地区 団地 丁目 番 号					
所有者・管理者の連絡先		記入者氏名		TEL:			
TEL:		居住者への説明		□済 □未了 □居住者不在 □老人独居住宅			
写真・図より被災状況図		応急措置		□済 □未了 □被災無 □簡易記録			
宅地地盤				のり面・自然斜面			
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.盤ぶくれ
5.のり面保護工変状	6.排水施設の変状	※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を宅地地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。					

解説

被災状況図は写真・図よりのり面・自然斜面のハラミに○をつけます。

例題-10 (解答)



解説
のり面高さは5.0m, のり長は7.0mになります。

例題-10 (解答)

のり面・自然斜面	変形状態のチェック(複数可)	小		中		大	
	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未満又は複数	2	写真より	3
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm未満	4	30 cm以上	5
	3 ガリー・浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝壺状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9
	5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり枠の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のすれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・すれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9
	6 排水施設の変状	天端排水溝にすれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7
	7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。					
	8 湧水、落石・転石	☒ 無 ☐ 有→+1点(上の点数に1点加える)					
	被害の判定値 ※見込みの変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し	4 点 ☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害: 0点(防災上問題無し) 小被害: 1~3点(当面は防災上問題無し) 中被害: 4~7点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)					
	危険度判定	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小 ☐ 無 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)					
	所見記入者の意図 ※無被害の場合は記載無し	緊急度 ☐ 大 ☒ 中 ☐ 小 拡大の見込 ☒ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可 (備考:)					

解説
変状点は写真より、ハラミが20 cmなので4点、湧水・落石は無いので無にチェックをつけます。したがって、判定値は4点となり、中被害となります。緊急度は中ですが、拡大の見込みは大となります。

【例題-15】 擁壁+宅地地盤パターン(3)

例題-15（現場写真）



例題-15-1

（様式-1）擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		地区 閉地 市 町 村 区 町 村					
所有者・管理者氏名		記入者氏名					
所有者・管理者の連絡先		TEL:					
TEL:		記入者への説明					
		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録					
<被災状況図> 1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.壁面の折損 7.崩壊 8.掘削/削り取りの状況 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状 建物・道路との位置関係(基礎点) 被害距離(m) 被害距離(m) 被害距離(m)							
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
【平面図】				【断面図】			
被災写真の有無 ☐ 無 ☐ 有→写真番号 []							
特記事項							

(様式-1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調 査 票	調査日時 年 月 日	調査番号	調査日時 年 月 日	調査番号	調査日時 年 月 日	調査番号	
被災発生場所		都道府県		市 郡		区 町 村	
地区 団地		丁目		番		号	
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL:			
所有者・管理者の連絡先		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅			
＜被災状況図＞				応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録			
1.クラック		2.水平移動		3-1.不同沈下		3-2.自地の開き	
4.ハラミ		5-1.傾斜		5-2.倒壊		6.復旧の旨限	
7.崩落		8.傾斜・圧迫・沈下の傾向		9.基礎及び基礎地盤の被害		10.排水施設の変状	
				建物・道路との位置関係（基礎点） 位置関係図（左） 位置関係図（右） 			
簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被災が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
〔平面図〕				〔断面図〕			
被災写真の有無 ☐ 無 ☐ 有→写真番号〔							
特記事項							

例題-15-1

[illegible]

例題-15-1（解答）

（様式－1）擁壁被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時		年	月	日	時	調査番号
		地震名又は降雨災害名						
被害発生場所		都道府県			市郡		区町村	
		地区 団地			丁目		番 号	
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL：				
所有者・管理者の連絡先		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅				
TEL：								
写真・図より		被災状況図＞						
☐ 被災無 ☐ 簡易記録		☐ 緊急措置 ☐ 済 ☐ 未了						
☐ 被災無 ☐ 簡易記録		☐ 緊急措置 ☐ 済 ☐ 未了						
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.ハラミ	5-1.傾斜	5-2.倒壊	6.擁壁の折損	7.崩壊
8.張出し床版付擁壁の支柱の損傷	9.基礎及び基礎地盤の被害	10.排水施設の変状	建物・道路との位置関係（基礎点）					
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。								

解説

被災状況図は、写真・図より、ハラミに○をつけます。

影響範囲は、擁壁の下部が建物まで3mなのでAとなります。

例題-15-1（解答）

[平面図]

[断面図]

被災写真の有無	☐ 無 ☒ 有→写真番号 []
特記事項	高さ5mの空石積一ヶ所孕みが発見された。 今後、地震や降雨による拡大が考えられることから注意が必要。

解説

擁壁タイプは、写真・図より、空石積で、ハラミを生じています。擁壁の高さは、5mとなっています。また、宅地地盤内で水道管が破裂しています。

例題-15-1（解答）

擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	☐ コンクリート系擁壁 ☐ 煉石積擁壁 ☒ 空石積擁壁	☐ 碇型 ☐ もたれ式 ☐ その他 ☐ 場所打ち ☐ プレキャスト ☐ 積地石 ☐ その他 ☒ 玉石積 ☒ 積地石 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ コンクリートブロック ☐ くずれ石積	☐ 増築・補修壁 ☐ 二段擁壁 ☐ 掘出し床版付擁壁 ☐ 擁壁の設置条件 ☐ 擁壁の本数	空石積は構造的に 水抜孔の効果がある為、 天端状況で判断。	上部高 m; 下部高 m 度又は (1 :)
基礎点	①湧水	乾燥	写真より	0	0	基礎点計 ①+②+③ 1.0	
		湿潤		0.4	0.2		
		にじみ出し、漏出		0.8	0.4		
		水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止		0	0		
		水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透しやすい		0.4	0.2		
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適当		0.8	0.4		
		H ≤ 1m		0	0		
		1m < H ≤ 3m		0.2	0.1		
②高さ	3m < H ≤ 4m		0.4	0.2			
	4m < H ≤ 5m		0.6	0.3			
	5m < H		0.8	0.4			

解説

基礎点は写真・図より、湧水は無いので0点、天端状況が砂利敷きで水が浸透しやすいため0.4点、擁壁の高さは5mなので0.6点で、合計1.0点となります。

例題-15-1（解答）

区分	項目	程度						小						中						大					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
変状形態と変状点	1 クラック	1	2	3	4	5	6	2.5	3.5	4	5	7	7	4	5	6	7	8	9	10	10	10	10	10	10
	2 水平移動	2	2.5	3.5	4	6	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9	10	10	10	10	10	10
	3 不平等下・目地の開き	3	3.5	4	5	7	7	4.5	5	6	7	9	9	6	7	8	9	10	10	10	10	10	10	10	10
	4 ハラミ	4	4.5	5	6	8	8	5	6	7	8	9	9	7	8	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	5 傾斜・倒壊	5	5.5	6	7	8	8	6	7	8	9	10	10	8	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	6 擁壁の崩壊	6	6.5	7	8	9	9	7	8	9	10	10	10	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	7 崩壊	7	7.5	8	9	10	10	8	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	8 張り出しはばねの擁壁の存在	8	8.5	9	10	10	10	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	9 基礎及び埋戻地の状況	9	9.5	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10 排水設備の状況	10	10.5	11	11	11	11	11	11.5	12	12	12	12	12	12.5	13	13	13	13	13	13.5	14	14	14	14
	11 擁壁前面の水漏れ等	11	11.5	12	12	12	12	12	12.5	13	13	13	13	13	13.5	14	14	14	14	14	14.5	15	15	15	15
変状の程度	1 クラック	2mm未満のクラックがあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)						2mm～3mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm～5mm未満)						3mm以上(コンクリート系擁壁の場合5mm以上)											
	2 水平移動	5mm未満の隙間が認められる。						5mm～30mm未満の隙間が認められる。						30mm以上の隙間が認められる。											
	3 不平等下・目地の開き	5mm未満の目地の下のずれ又は目地の開きがある。						5mm～30mm未満の目地の下のずれ又は目地の開きがある。						30mm以上の目地の下のずれ又は目地の開きがある。											
	4 ハラミ	小規模のハラミ及び目地の開きが1～2個認められる。						中規模のハラミ及び目地の開きが3～5個認められる。						大規模のハラミ及び目地の開きが6個以上認められる。											
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面の傾斜に対して垂直に倒壊している。						擁壁が前面の傾斜に対して傾斜して倒壊している。						擁壁が前面の傾斜に対して大きく傾斜して倒壊している。											
	6 擁壁の崩壊	クラックを境に崩壊が45度以上をなしている。						クラックを境に崩壊が45度以上をなしている。						クラックを境に崩壊が45度以上をなしている。											
	7 崩壊	崩壊が前面の傾斜に対して垂直に倒壊している。						崩壊が前面の傾斜に対して傾斜して倒壊している。						崩壊が前面の傾斜に対して大きく傾斜して倒壊している。											
	8 張り出しはばねの擁壁の存在	張り出しはばねの擁壁が存在している。						張り出しはばねの擁壁が存在している。						張り出しはばねの擁壁が存在している。											
	9 基礎及び埋戻地の状況	大規模な下りクラックが生じている。						大規模な下りクラックが生じている。						大規模な下りクラックが生じている。											
	10 排水設備の状況	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は天端排水溝の詰まりが認められる。						天端排水溝にずれ、欠損がある。又は天端排水溝の詰まりが認められる。						天端排水溝にずれ、欠損がある。又は天端排水溝の詰まりが認められる。											
	11 擁壁前面の水漏れ等	破裂して水が漏れている。						破裂して水が漏れている。						破裂して水が漏れている。											
被害の事象	基礎点 1.0 + 変状点 10.0 = 11.0 点																								
	危険度判定 ☒ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無																								
	緊急性 ☒ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無																								

解説

変状点は、写真・図より、円弧滑りのおそれがあり10点となります。水道管破裂があるので○をつけます。したがって、基礎点が1.0点、変状点が10.0点となるため、合計11.0点の大被害となります。緊急度大、拡大の見込み有となります。

例題-15-2

(様式-2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県 市 市 区町村					
所有者・管理者氏名		地区 団地		丁目		番 号	
所有者・管理者の連絡先		記入者氏名		TEL:			
TEL:		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅			
<被災状況図>				応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録			
宅地地盤				のり面・自然斜面			
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.壁ぶくれ
3.ガリ・浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊					
5.のり面保護工変状				6.排水施設の変状			
※宅地地盤・宅地ののり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を宅地地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
【平面図】				【断面図】			
被災写真の有無 ☐ 無 ☐ 有→写真番号 []							
特記事項							

解説
次に、宅地地盤でも判定してみましょう。

例題-15-2

のり面・自然斜面の基礎的条件										
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明	オーバーハング	☐ 無 ☐ 有						
	土 砂	☐ 砂留土 ☐ 硬留土 ☐ 粘性土 ☐ 不明	排水施設	☐ 無 ☐ 有(のり面、小段排水)						
のり面高	最大高	m(平均高)	m	のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物					
のり面勾配	(うち隆起高)	m	m	擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部					
のり面配	度									
のり長さ	m	家屋の有無 ☐ 有 ☐ 無 ☐ 有 ☐ 無								
変状形態と配点表										
宅地地盤	変状形態のチェック(複数可)		小	中	大					
	1 クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15 cm未満又は複数	3	15 cm 以上又は全面	5			
	2 陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm未満	4	50 cm 以上	6			
	3 沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm未満	4	25 cm 以上	7			
	4 隆起(隆起量)	20 cm未満	3	20~50 cm未満	5	50 cm 以上	8			
	5 隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20~50 cm未満	8	50 cm 以上	9			
のり面・自然斜面	変状形態のチェック(複数可)		小	中	大					
	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未満又は複数	2	15 cm 以上又は全面	3			
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm未満	4	30 cm 以上	5			
	3 ガリ・浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が薄く陥没するなど数箇所に及ぶと被害が広がるおそれのあるもの。	7	凹状や瘤状にガリが造成して家屋の基礎やのり面等の下部に被害を及ぼすような状態。	8			
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	全面すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底層を含む崩壊。	9			
	5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり面の間隙の陥没、又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のすれは認められない程度。	7	例えば、のり面の間隙の陥没、又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり面のすべり破壊、又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも被害が見受けられる。	9			
自然斜面	排水施設の変状		天端排水溝にすれ、欠損がある。又は、天端排水溝、排水面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7		
	7 のり面内の水道管等の破損		破損して水が流出している。							8
	8 湧水、落石・転石		☐ 無 ☐ 有→1点(上の点数に1点加える)							
被害の特定値		被害程度の点数と危険度判定☆								
※被害程度の最大値を記入した点数(被害程度)の場合、被害の範囲を記載し		無被害: 0点(防災上問題無し)								
危険度判定		小被害: 1~3点(当面は防災上問題無し)								
中被害: 4~7点(断続的立入、進行していれば避難)										
大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)										
所定記入者の意見		緊急度		(人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)						
※無被害の場合、被害無し		重大の見込		☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無 ☐ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可 (備考:)						

例題-15-2（解答）

（様式－2）宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時	年	月	日	時	調査番号			
		地震名又は降雨災害名								
被害発生場所		都道府県		市郡		区町村				
		地区 団地		丁目		番 号				
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL：						
所有者・管理者の連絡先		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅						
TEL：				応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録						
写真・図より <被災状況図>										
宅地地盤				のり面・自然斜面						
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.盤ぶくれ	3.ガリ-浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊
5.のり面保護工変状		6.排水施設の変状		※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。						

解説

被災状況図は、宅地地盤の陥没に○をつけます。

例題-15-2（解答）

[平面図]		[断面図]	
被災写真の有無	☐ 無 ☒ 有→写真番号 []		
特 記 事 項			

解説

宅地地盤は、擁壁の天端付近で5cmの陥没が生じています。

例題-15-2（解答）

のり面・自然斜面の基礎的条件								
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明		オーバーハング	☐ 無 ☐ 有			
	土 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明		排水施設	☐ 無 ☐ 有(のり肩、小段排水)			
のり面高 (複合のり面は擁壁高含)		最大高	m(平均高	のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物			
		(うち擁壁高	m)					
のり面勾配		度		擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部			
					☐ のり面の下部 ☐ 全面			
のり長さ		m		家屋の有無	上部 ☐ 有 ☐ 無 : 下部 ☐ 有 ☐ 無			
図より 変 状 形 態 と 配 点 表								
宅 地 地 盤	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大	
	1 クラック(幅)	3 cm未満	1	3～15cm 未満又は 複数	3	15cm 以上又は全面	5	
	2 陥没(深さ)	20 cm未満	2	20～50 cm未満	4	50 cm以上	6	
	3 沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10～25 cm未満	4	25 cm以上	7	
	4 段差(段差量)	20 cm未満	3	20～50 cm未満	5	50 cm以上	8	
	5 隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20～50 cm未満	8	50 cm以上	9	
	6 湧水、噴砂	☒ 無 ☐ 有→+ 1 点(上の点数に 1 点加える)						

解説

変状点は、陥没が20cm未満なので2点、湧水・噴砂は無いので無にチェックをつけます。
湧水、噴砂はありませんので、無にチェックしてください。

例題-15-2（解答）

の り 面 ・ 自 然 斜 面	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大	
	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3～15 cm 未満又は複 数	2	15 cm以上又は全面	3	
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10～30 cm未満	4	30 cm以上	5	
	3 ガリー浸食	クラックなどが誘因 となって雨滴による 浸食が現れはじめた 段階。	6	のり面の表土が雨裂 に陥没するなど放置 していると被害が広 がるおそれのあるも の。	7	洞穴状や滝壺状にガ リーが進展して家屋 の基礎やのり面等の 下側に被害を及ぼす ような状態。	8	
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべ り、又はのり面上部 の小崩壊。	7	表層すべりが進んで えぐり取られたよう な状態。放置すると 拡大するおそれのあ るもの、又はのり面 中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊 で、さらに拡大のお それがあるもの、又 はのり面底部を含む 全崩壊。	9	
	5 のり面保護工の変状 (植生工は除く)	例えば、のり枠の間 詰め陥没。又はコン クリート吹付工にわ ずかにテンションク ラックが見られるが 吹付工のずれは認め られない程度。	7	例えば、のり枠の部 分的な破損。又はコ ンクリート吹付工の クラック部分で陥 没・ずれが見受けら れる。	8	例えば、のり枠の浮 上り破損。又はコン クリート吹付工のラ ス金網が露出し、コ ンクリート吹付面にも 破損が見受けられる。	9	
	6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、 欠損がある。又は、天 端背面、舗装面にク ラックが見られる。	3	左に加え、のり面の クラック、又は目地 からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下す るなど、排水機能が 失われている。	7	
	7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。						8
	8 湧水、落石・転石	☐ 無 ☐ 有→+1点(上の点数に1点加える)						
	被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記録無し		2 点		☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害: 0 点(防災上問題無し) 小被害: 1～3点(当面は防災上問題無し) 中被害: 4～7点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害: 8～10点(危険、要避難、立入禁止)			
	危険度判定		☐ 大 ☐ 中 ☒ 小 ☐ 無					
	所見記入者の意見 ※無被害の場合は記録無し		緊 急 度		☐ 大 ☐ 中 ☒ 小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)			
			拡大の見込		☐ 有 ☒ 無 ☐ 判断不可 (備考:)			

解説

判定値は、陥没の2点となるため、小被害となります。
実際には、空石積擁壁の判定が高くなりますので、宅地地盤での判定は省略して構いません。



ご静聴ありがとうございました

公益社団法人 全国宅地擁壁技術協会